

「昼間の定時制」新設

14年度 元港南台高を活用

県教育長方針

県内3校目となる「昼間の定時制高校」を新設へ。藤井良一県教育長は30日、再編統合によって使われなくなる元港南台高校(横浜市港南区)の校舎と敷地を活用する方針を明らかにした。ここ数年、不況を背景に「経済的な理由で私立高校に通えない」という生徒が公立定時制高校に集中。「昼間に学びたい」と考える生徒も増加していることから、多様化する学び方に対応していく。(佐野 克之)

新設高校は2014年度に開校予定。午前部、午後部を持つ多部制高校とし、募集人員など基本方針は11年度中に策定する見通し。

昼間の定時制を持つ県内の高校は、県立相模向陽館高校(座間市)と横浜市立横浜総合高校(横浜市中区)の2校。いずれも希望者が

多く、相模向陽館高は10年の開校以来、2年連続で前期選抜は約3倍、後期選抜は約2倍の高倍率が続いている。

今春、県内の定時制高校(夜間)に入学した生徒を対象に県教委が行った調査では、不況や雇用状況の悪化から「経済的な理由で私学進学を諦めた」と回答した生徒の割合が、前年度比19・2割増の28・1%に急増していた。特に横浜地域で定時制高校への進学を希望する生徒が多いとい

う。昼間の定時制高校を新設する背景には、生徒の学び方の変化もある。県立定時制高校全20校で、正規就業している生徒の割合は約3・1%にとどまり、「昼間に働き、夜学ふという生徒は少なくなっている」と県教委担当者。一方、中学校で不登校だった生徒や外国籍の生徒などが入学し、多様な生徒の学びの場になっているという。

港南台高校は上郷高校(同市栄区)と再編統合し、09年4月に上郷高校の校舎を使って横浜栄高校が誕生。港南台高校の建物と敷地は、校舎耐震工事中の県立横浜立野高校が13年度まで利用する。